



年 頭 所 感

商工組合中央金庫
理事長 江 崎 格

平成16年の新春を迎えるにあたり、所感の一端を申し述べて年頭のご挨拶にさせていただきます。

まず、昨年の海外経済を振り返りますと、年前半はイラク情勢の緊迫化やアジアを中心とした新型肺炎（SARS）の流行を受けて先行き不透明感が高まり、世界的に景気は低迷いたしました。しかし、これらの問題が一定の終息をみせると同時に消費者や企業のマインドは好転し、世界的に景気の回復を目指す動きが続きました。特に、米国経済は個人消費や設備投資主導により景気拡大基調が鮮明になりつつあります。また、発展の続く中国でも景気拡大が続きました。米国や中国の景気拡大を受けて欧州経済やアジア

経済にも徐々に明るい兆しがみえてきました。

わが国経済でも企業業績が回復する中で、景況感が改善し、設備投資に持ち直しの動きが見られました。輸出もアジア向け中心に増勢を保ちました。ただ、家計部門をみますと、依然として雇用・所得環境は厳しく、個人消費は盛り上がり欠ける展開となりました。また、公共投資も財政健全化への取り組みから引き続き減少基調にあり、景気は緩やかな回復にとどまっています。

中小企業の景況感にも明るい兆しが見え始めました。売上高の減少に歯止めが掛かり、企業収益も改善に向かうなど、中小企業の業績は回復しつつあります。

ただ、大企業に比べると改善の度合いは低く、業種間での格差がみられるなど、まだまだ本格的な回復には至っていません。

今年の経済情勢を展望しますと、米国経済は引き続き個人消費や設備投資主導での景気拡大が見込まれます。欧州経済も景気回復への動きが現れ始め、アジア経済も高成長の続く中国が牽引していくことが見込まれます。

一方、わが国経済をみますと、世界経済の拡大を受けて、企業部門を中心に回復への動きが続くと思われまます。しかし、過剰債務や過剰雇用が依然として残り、デフレの早期解消も見込み難いなか、設備投資の拡大も限定されたものとなりましょう。同時に家計部門でも雇用・所得環境の改善も期待しにくく、個人消費は盛り上がりを欠く展開が予想されます。公共投資も引き続き財政状況の厳しさから減少が続き、全体としては緩やかな成長にとどまることが見込まれます。

日本経済が自律的な景気回復過程に進むためには、民需が力強く回復することが求められます。不良債権処理と産業再生の両立、財政再建、年金問題など困難な課題に直面していますが、これらの問題を解決していくことで、日本経済の成

長はより確かなものとなりましょう。中小企業におきましても、持ち前の機動性や創造性を遺憾なく発揮し、新たな発展の礎を築くことが求められる重要な年になると考えられます。

政府の中小企業対策におきましても、創業、革新、再生の三つを柱に数々の施策が打ち出されており、これからの景気回復や雇用拡大にとって、中小企業分野の活性化は不可欠といえます。私ども商工中金も、中小企業専門の政府系総合金融機関として、政策性・独自性のある金融サービスを提供してまいります。今後とも中小企業金融のリーディングバンクとして中小企業の皆様の幅広いニーズにお応えし、最も信頼され、かつ支持されるパートナーとしてさらなる努力を続けてまいります。どうか本年もよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆様のご繁栄とご健勝をお祈りいたしましてご挨拶といたします。

